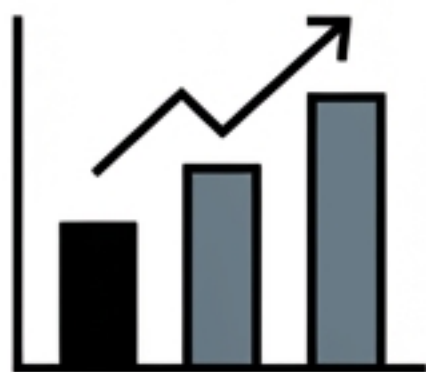


2026年のAIランドスケープ： コスト、コード、そして現実



2024 2025 2026

INFRASTRUCTURE

AWS GPU価格の高騰とエッジ回帰



WORKFLOW

Claude Codeモバイル運用の実態



REALITY CHECK

労働力幻想と品質の危機

本日の重要トレンド (Executive Summary)

INFRASTRUCTURE

+15% 

AWS GPU (Capacity Blocks) 価格上昇。
対抗策としてのLiquid AI エッジ回帰。

WORKFLOW



Mobile Dev Revolution
スマホでClaude Codeを本番運用。
品質向上のためのプロンプトハック。

REALITY CHECK



AI労働力の幻想 (Ca1 Newport)
論文の質の低下とアプリの肥大化。

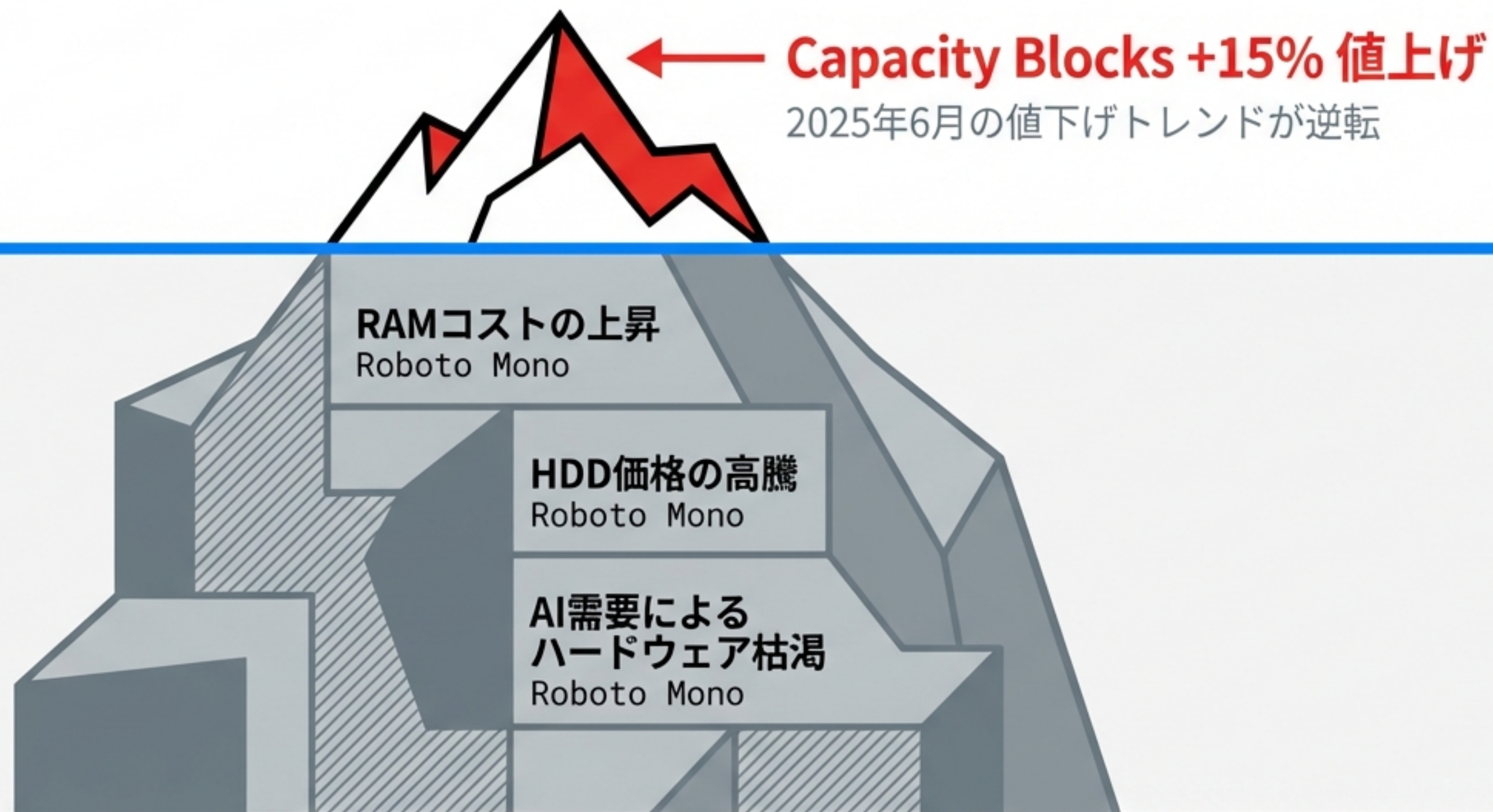
FUTURE SIGNALS



Physical Intelligence
(Boston Dynamics x DeepMind)
教育と理論のブレイクスルー。



AWS 「週末の密かな値上げ」 が示すクラウドの限界



Implication: クラウドコストの上昇により、スタートアップや研究機関の参入障壁が高まる懸念。「サブスク地獄」か、それとも「需給の調整」か。

エッジへの回帰：Liquid AI LFM2.5の戦略的価値

CLOUD CONSTRAINTS



- コスト変動リスク (AWS +15%)
- API依存のロックイン
- プライバシーの懸念

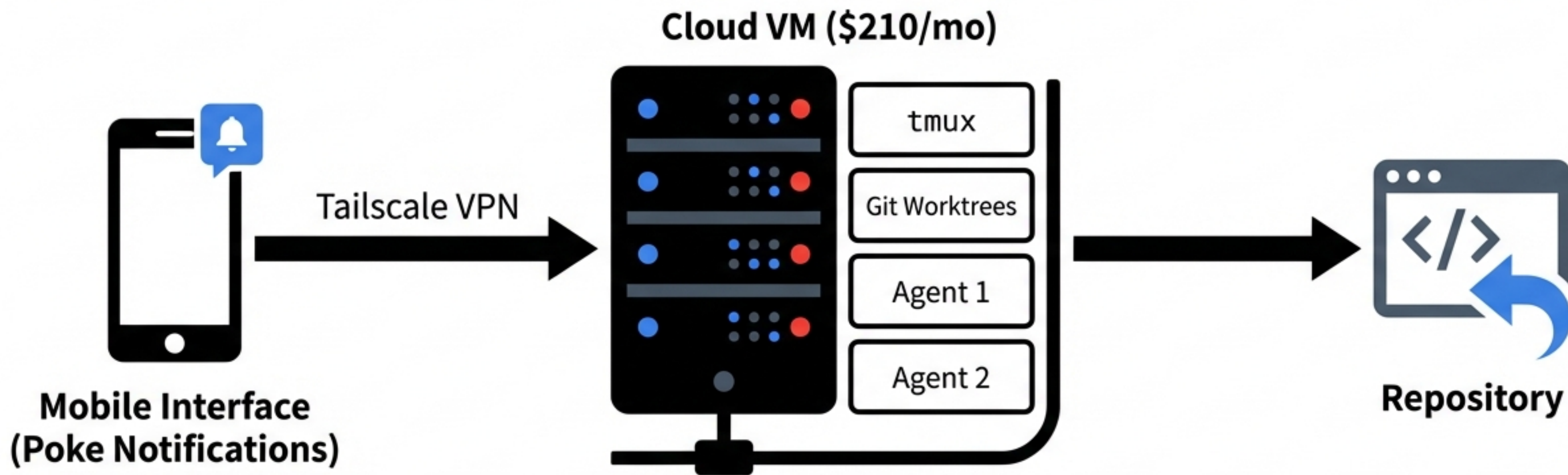
EDGE FREEDOM



- 推論コストの固定化
- Liquid AI LFM2.5 (MITスピンアウト)
- ローカル実行による低遅延

戦略的示唆: AWSのようなクラウドコスト上昇局面において、オンデバイスAIは「コスト防衛」の有力な選択肢となる。

ワークフローの進化：Claude Codeによる「歩きながらコーディング」

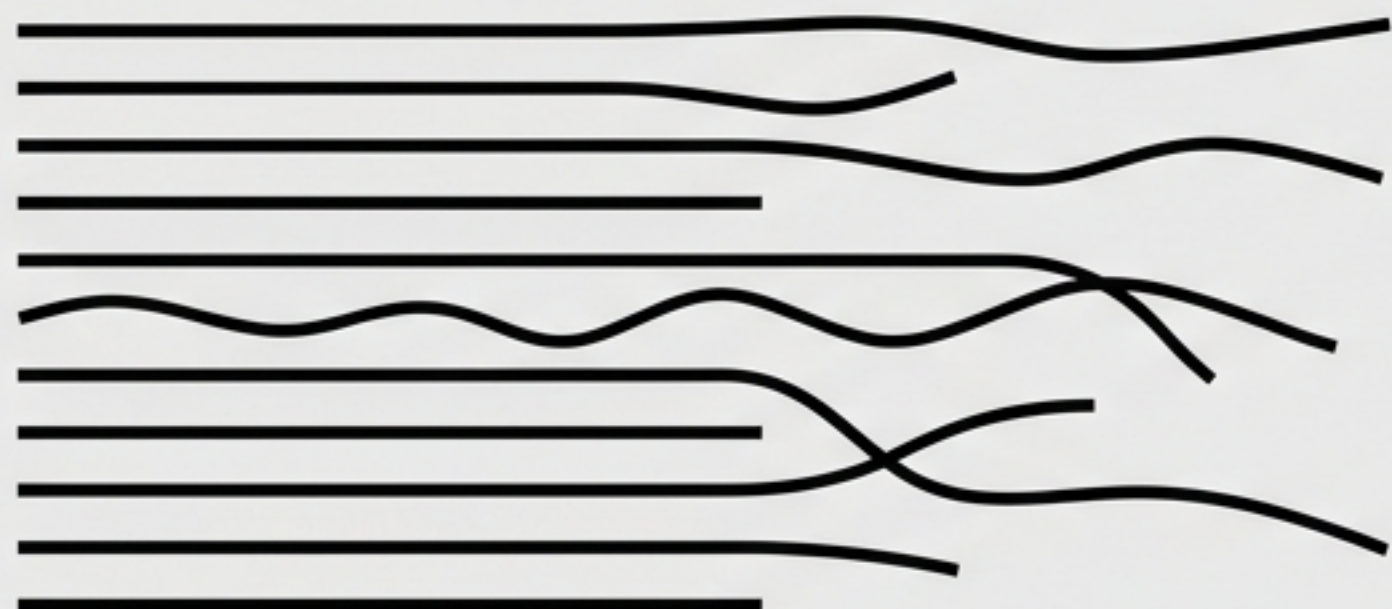


TailscaleとGit Worktreesを駆使し、スマホから複数のエージェントを並列操作。アイデアの即時実装が可能に。

```
// Investment  
VM Cost:      $210/month  
Token Cost:   $51,000 (3 months)  
Status:      実用段階だがPCレビューは必須
```

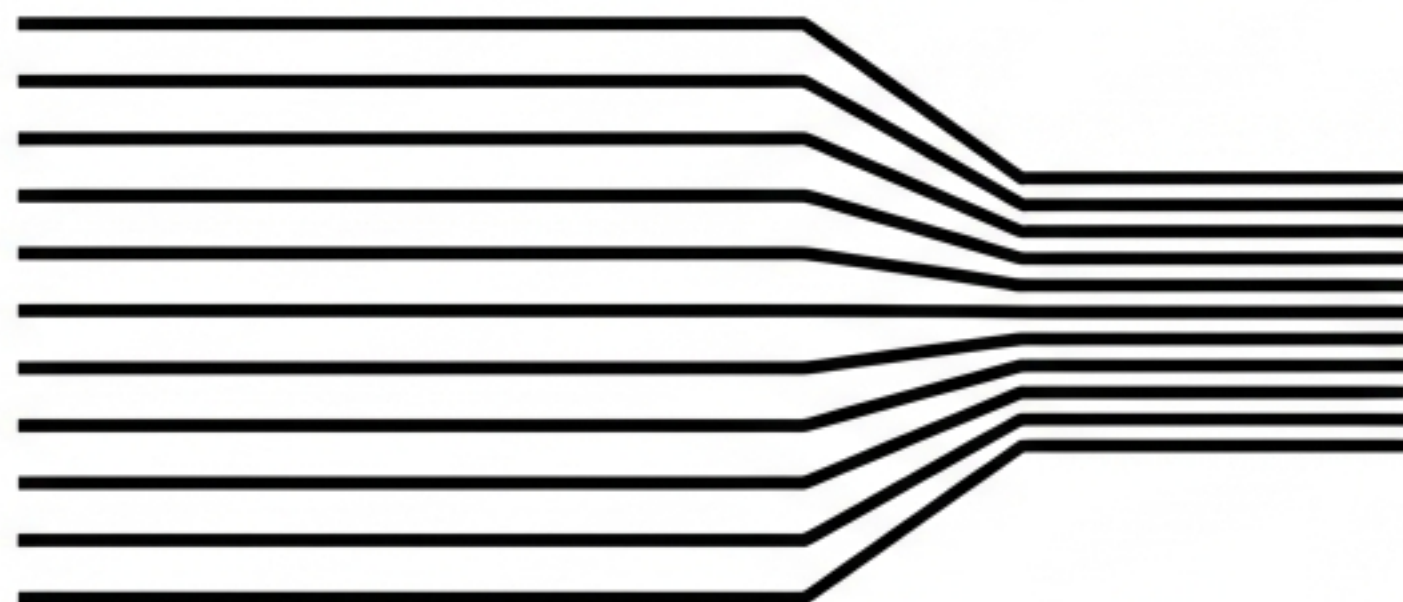
品質を劇的に改善する「Claudeプロンプトハック」

BEFORE: Standard Prompt



- 出力の一貫性が低い
- 複雑な指示の無視
- 「幻覚」のリスク

AFTER: Hacked Structure

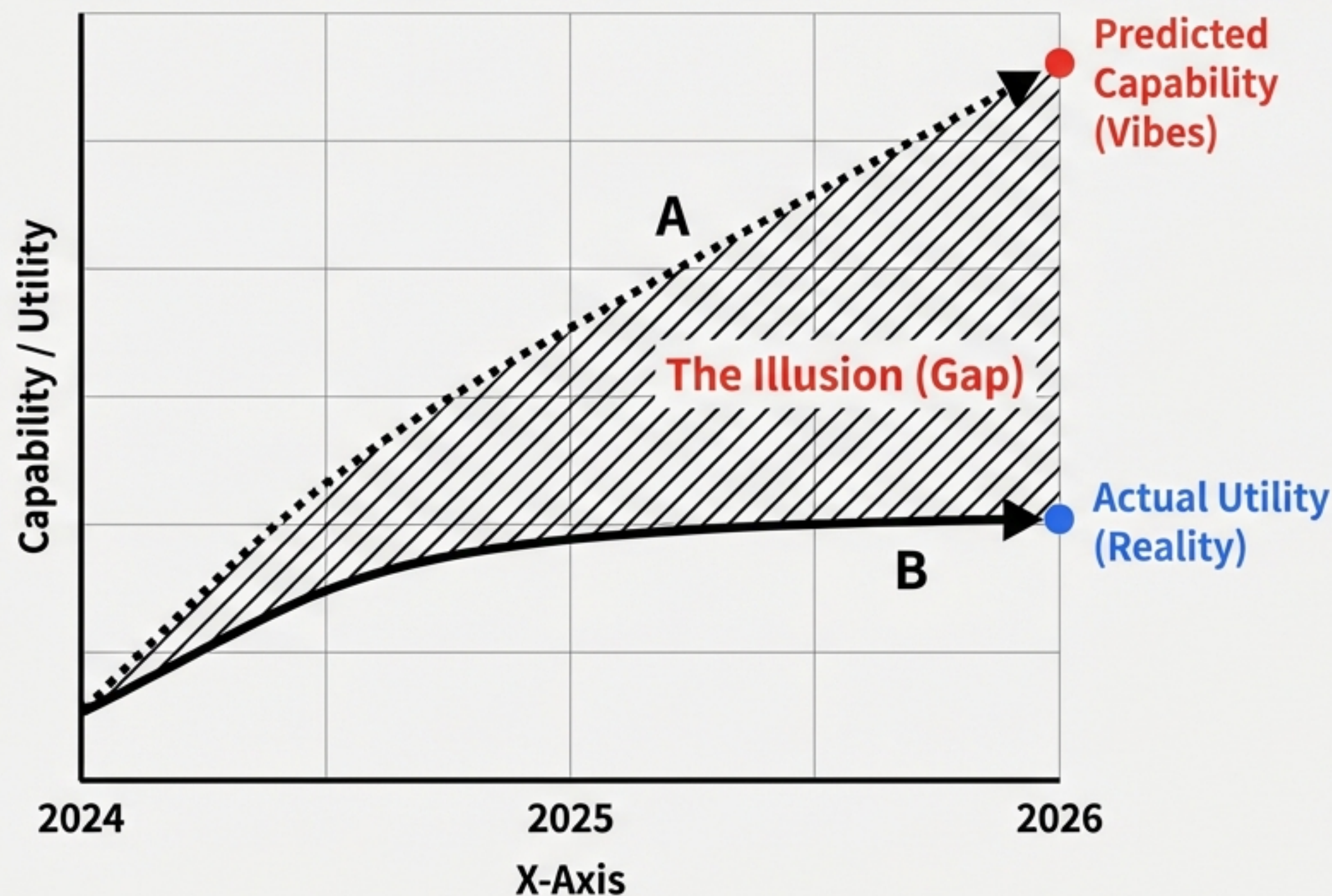


- Redditコミュニティ発の最適化構造
- 論理的ー貫性の向上
- 「一度知ると戻れない」品質

CAUTION: このハックはモデルのアップデートで無効になる可能性があります。重要なタスクでは必ず事前検証を。

現実確認：なぜ2025年にAIは「労働力」にならなかったのか

GAP ANALYSIS: PREDICTION VS. REALITY



Source:

Cal Newport (Deep Work)

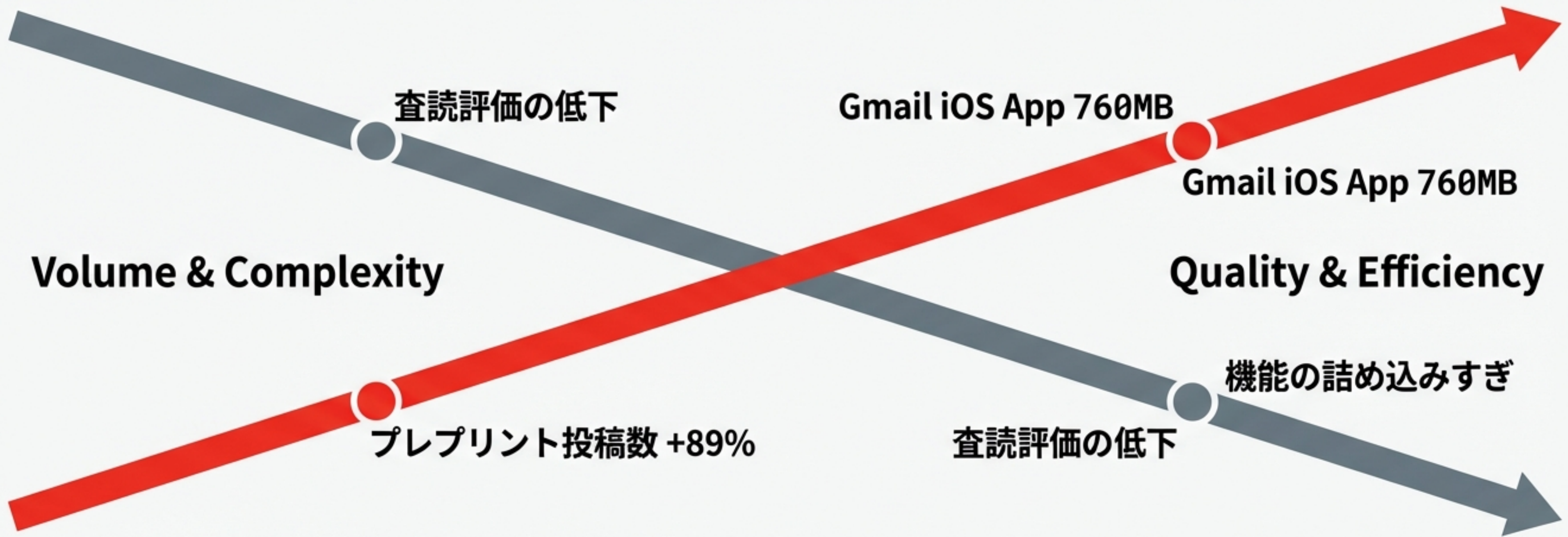
Insight:

Claude Codeはコーディング領域で成功したが、営業・経理・人事などの「一般的な知識労働」への汎化は限定的だった。

Conclusion:

AIは自律的な「労働力」ではなく、あくまで特定のタスクを支援するツール。

シグナル対ノイズ比の悪化：「磨かれたクズ」とソフトウェア肥大化



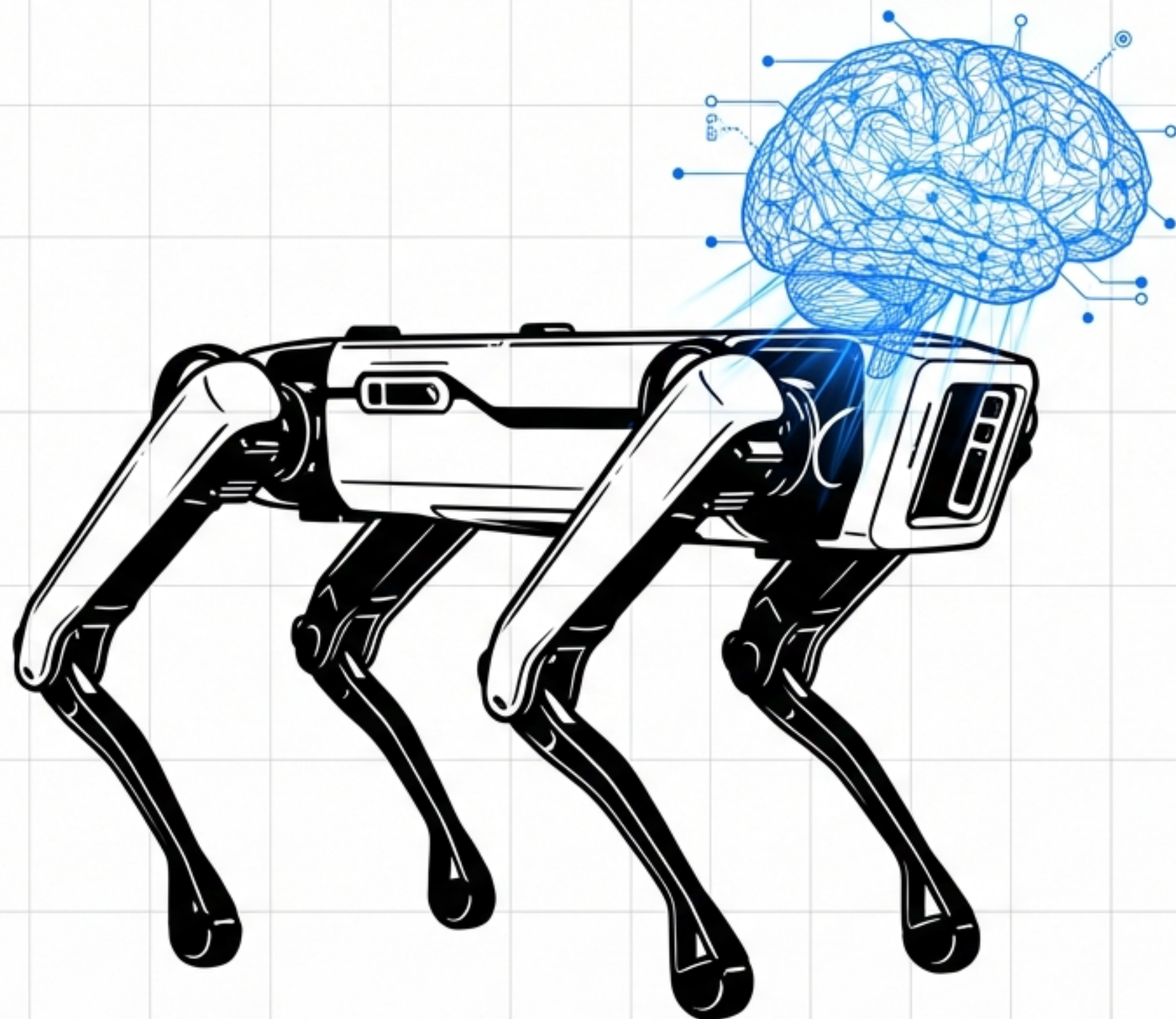
The Polished Turd Phenomenon

LLMにより「論文らしく見える」文章の量産が容易になったが、中身の質は低下。生成コストゼロ時代の弊害。

Software Bloat

Apple純正メール(8MB)に対し、Gmail(760MB)は機能過多で肥大化。効率性の欠如。

身体性を持つ知能：Boston Dynamics × DeepMind



The Partnership

ロボティクスの雄 Boston Dynamicsと、AI研究のDeepMindが提携。

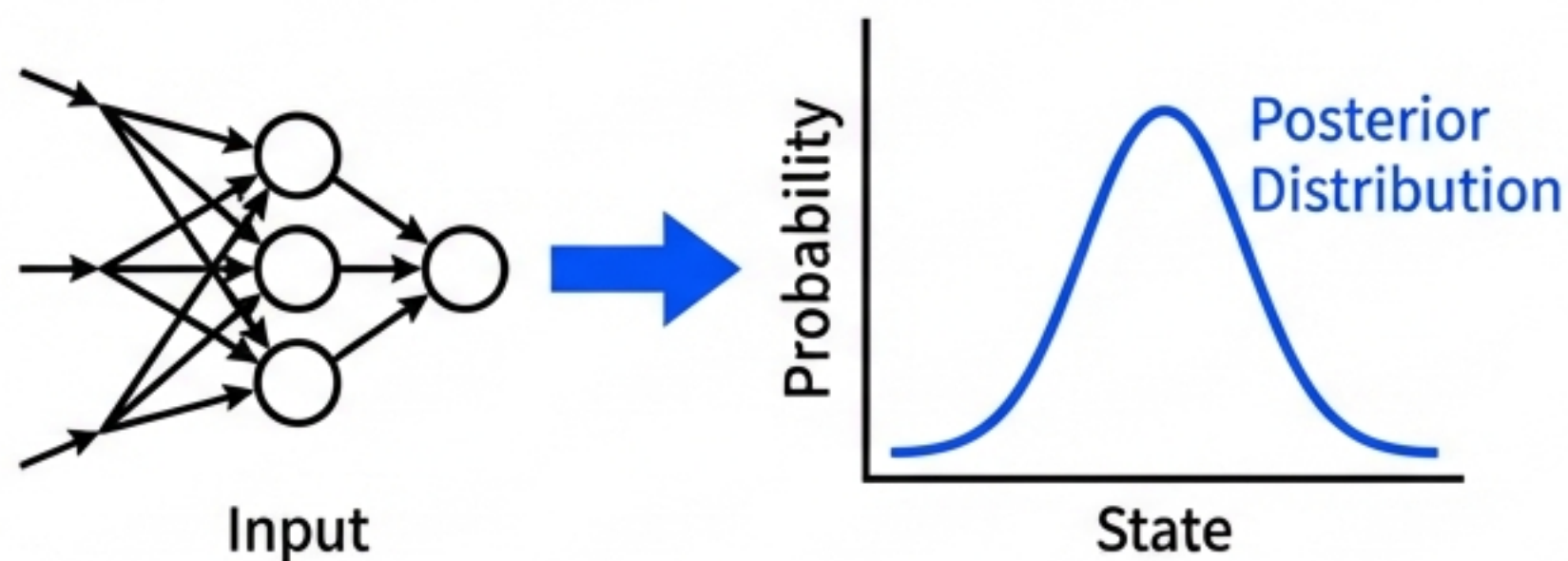
Goal: ヒューマノイドロボットへの高度なAI統合。

Background:

Googleは過去にBoston Dynamicsを売却したが、DeepMindを通じて再接近。AIがデジタル空間（画面）から物理空間へ進出する重要なシグナル。

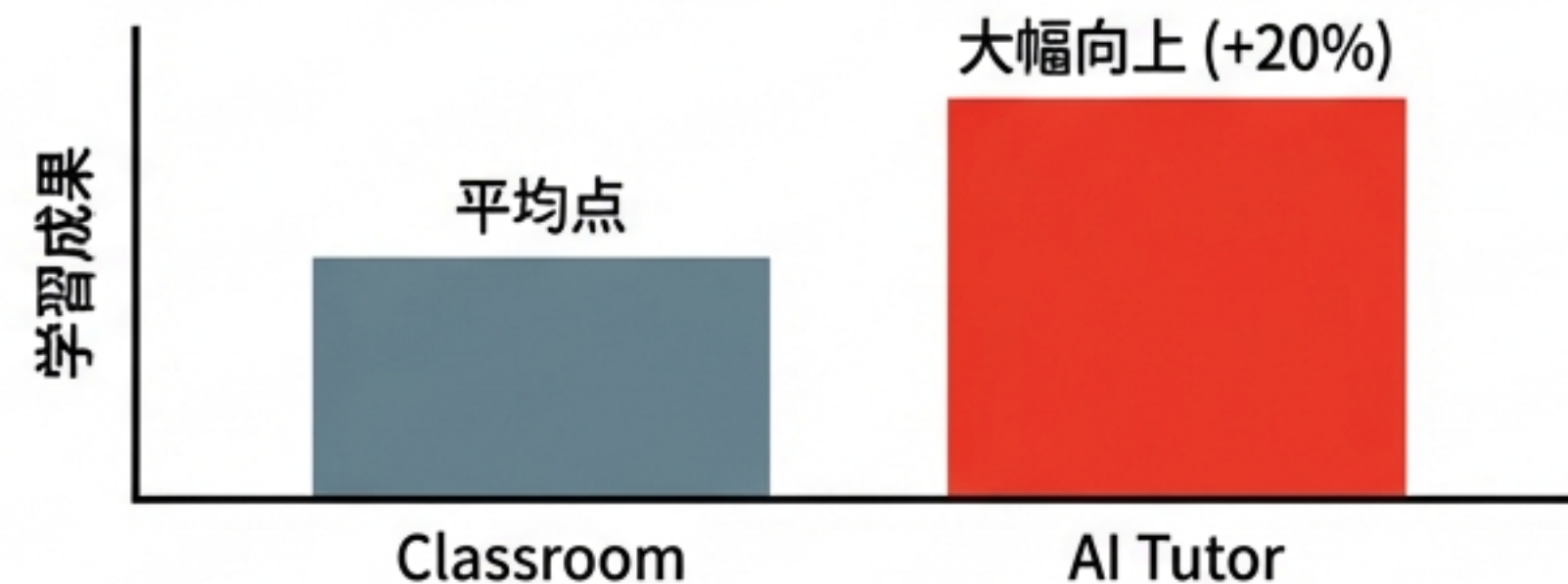
次なるブレイクスルーの兆し：理論と教育

THEORY (Columbia Univ) Attentionはベイズ推論である



Transformerの各レイヤーは事後確率を更新するベイズ的プロセスとして動作。「なぜ動くのか」の理論的解明が進む。

EDUCATION (Harvard) AI家庭教師の優位性

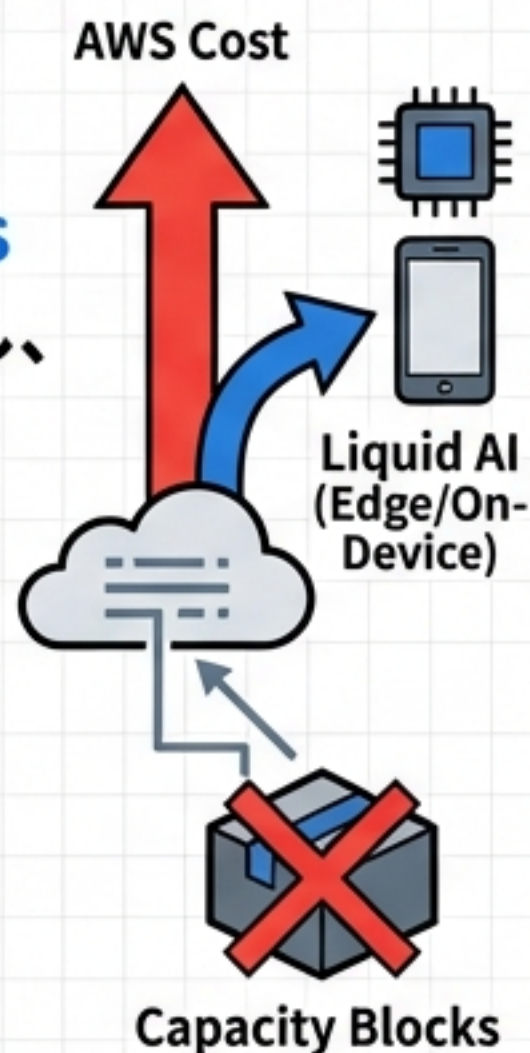


AIによる1対1の個別指導が、従来の教室形式よりも学習成果が高い。教育のパーソナライゼーションによる格差是正の可能性。

2026年の戦略的指針 (Actionable Takeaways)

1. INFRASTRUCTURE: コスト構造の見直し

AWSの値上げは一過性ではない。
Capacity Blocksへの依存を見直し、
推論にはLiquid AIのようなエッジ/オンデバイスモデルの活用を検討せよ。



2. WORKFLOW: 開発スタイルのハイブリッド化

モバイル開発環境 (Claude Code + Tailscale) は実用段階にある。ただし、品質担保のためのPCレビュープロセスは厳格に維持せよ。



3. MINDSET: 「量」より「質」への投資

LLMによる大量生成 (論文、コード、メール) はノイズを生むだけだ。
「実力」に基づいた本質的な成果物に集中せよ。

